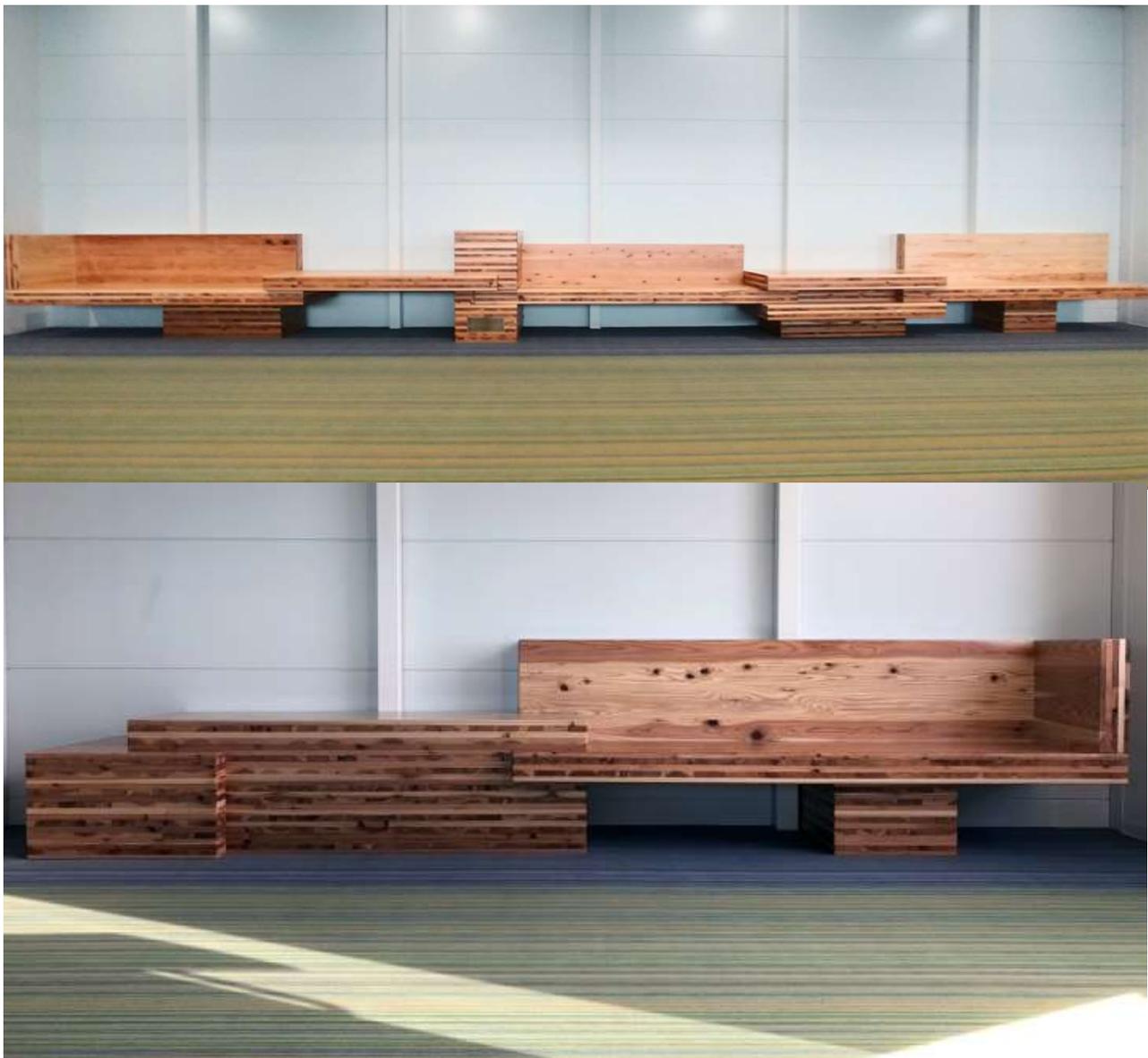




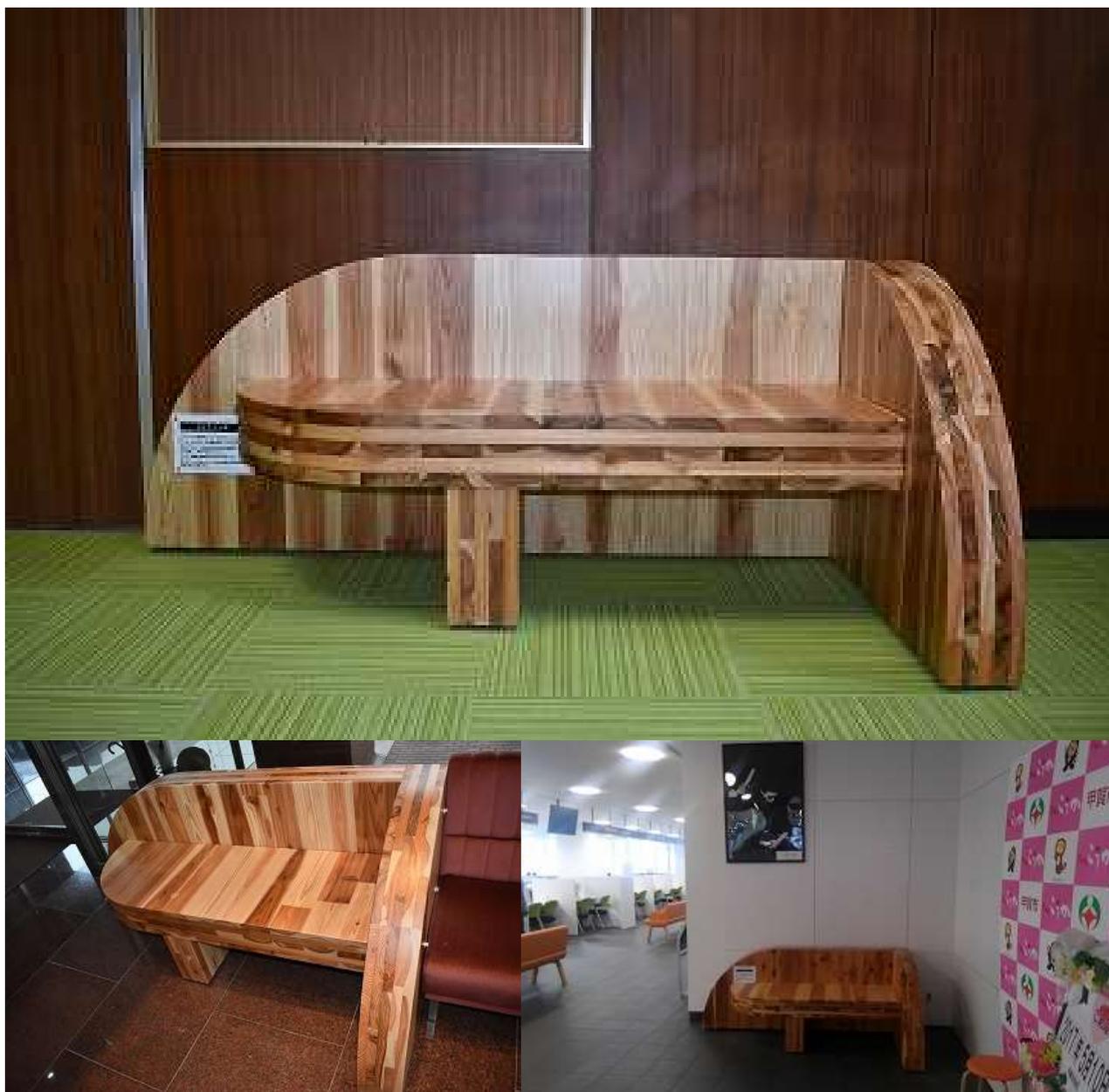
写真提供：宮城県CLT等普及推進協議会

名称	みやぎの明治村バス停 時刻表付CLTベンチ
用途	高速バス時刻表付きベンチ
実施者	設計：(株)SPAZIO建築設計事務所、施工：登米町森林組合・(株)タカハシ住建
所在地	宮城県登米市登米町
完成	平成30年7月19日（寄贈）
構造	段付き相欠き継ぎボルト締め
大きさ	0.81m ² ※ベンチの投影面積を示す
使用したCLT	0.1944m ³
CLTサイズ	（最大） W1800mm× D450mm× T 120 mm（3層4プライ）
CLT利用部分	垂直時刻表、水平ベンチ
特長	CLT製造：西北プライウッド(株)、プレカット：(株)山大 宮城県産杉を用いて「時刻表掲示板と待合いベンチ」機能を一体化した形。わずかな待ち時間を小さなコミュニティや楽しみに転換し、さらに地域の方々に親んでもらえる「場」となるよう期待しデザインしている。



写真提供：宮城県CLT等普及推進協議会

名称	仙台空港ピア棟CLTベンチ
用途	ベンチ
実施者	設計：(株)SPAZIO建築設計事務所、制作：守屋木材(株)、組立て：(株)奥羽木工所
所在地	宮城県名取市下増田字南原
完成	2018年10月
構造	ボルト締め、ビス止め
大きさ	高50cm x 長6m x 幅65cm
使用したCLT	5.19m ³
CLTサイズ	(最大) 120×5502,650mm (5層5プライ)
CLT利用部分	ベンチ全体
特長	ベンチ端部の片持ち形状や、2種類のパーツが組み合いながら連続することで、ベンチ全体が総合的に安定する「総持ち」の構成としている。また、CLT材の木口面を正面に向けて積み重ねることで、木材の立体的な量感を感じ取れる。ベンチ形状は、座面の高さを3種類とする事で、座り方にバリエーションを持たせ、年齢や性別、利用シーンに合わせて座り方が選択できる。



提供：(株)三東工業社

名称	CLTベンチ
用途	ベンチ
実施者	設計：加藤淳一建築設計事務所、加工組立：銘建工業(株)
所在地	滋賀県庁（県民サロン）【写真上】・三東工業社本社【写真左下】・甲賀市役所【写真右下】・栗東市役所
完成	2017年2月
構造	LSB接合（8箇所）
大きさ	
使用したCLT	端材利用
CLTサイズ	1950 x 940 x H750 5層57°ライ
CLT利用部分	座面、背面、側面
特長	三東工業社信楽本店で使用したCLT材の端材を有効利用。建物で使用したCLTパネルが特徴的な形状であったため、端材が多く発生した。端材の曲線を活かしたデザインのベンチが完成した。



提供：(株)日建設計

名称	COOLTREE 柏の葉プロジェクト 2018
用途	休憩施設
実施者	設計：(株)日建設計、施工：木村建造(株)
所在地	千葉県柏市若紫 かしわのはらっぱ
完成	2018年7月
構造	引きボルト締め
大きさ	休憩施設2基 合計 66.54 m ²
使用したCLT	16.7116m ³
CLTサイズ	(最大) 厚み 90 ×幅 650 ×長 6350mm (3層 3プライ)
CLT利用部分	土台
特長	ヒートアイランド現象が進行する市街地において、快適性を提供するクールスポット「COOL TREE（クールツリー）」を、柏の葉スマートシティ（千葉県柏市）内のコミュニティ広場「かしわのはらっぱ」に設置。高さ3.0m、直径7.7mの「COOL TREE」は、タイマー制御にて軒先からミストが吹き出し、気化熱で空気を冷やし、「クールベンチ」に座ると体に水滴がつかない超微細ミストが首筋や背中に届きます。使用する電力は、「COOL TREE」に設置した太陽光パネルで賄われ、発電された電力は、蓄電池に蓄えられ稼働時に使用されます。



提供：(株)日建設計

名称	飯田橋アイガーデンエア COOL TREE LITE
用途	休憩施設
実施者	設計：(株)日建設計、施工：木村建造(株)
所在地	東京都千代田区飯田橋3丁目10番
完成	2020年3月 ※同年9月末まで
構造	引きボルト締め
大きさ	休憩施設1基 23.04m ² (4.8m×4.8m)
使用したCLT	3.66m ³
CLTサイズ	(最大) 厚90×幅900×長4800mm (3層3プライ)
CLT利用部分	土台
特長	ヒートアイランド現象が進行する市街地において、快適性を提供するクールスポット「COOL TREE LITE (クールツリーライト)」を、アイガーデンエア（東京都千代田区飯田橋）内のフロントフォーラムに設置。高さ3.0m、大きさ4m角の「COOL TREE LITE」は、タイマー制御にて軒先からミストが吹き出し、気化熱で空気を冷やします。また、ペルチェ効果を利用した「クールベンチ」に座ることで体をクールダウンさせます。使用する電力は、屋根面に設置した太陽光パネルで賄われ、発電された電力は、蓄電池に蓄えられ、稼働時に使用されます。



写真撮影：秋田県立大学木材高度加工研究所

名称	石倉沢橋
用途	橋梁
実施者	設計：秋田県立大学木材高度加工研究所・土木学会木材工学委員会木橋研究小委員会、施工：門脇木材(株)、日本機械工業(株)
所在地	秋田県仙北市田沢湖湯字石倉沢
完成	2017年3月
構造	単純桁橋（H形鋼橋梁）
大きさ	25.79m ²
使用したCLT	5.06m ³
CLTサイズ	180×1,735×3,700 mm、180×180×1,735 mm
CLT利用部分	床版、地覆
特長	CLTを橋梁の床版に活用した林道橋。設計自動車荷重は14tf。4枚のCLTはそれぞれ異なる耐水処理を施し、耐久性を検証。同様のCLT床版橋は秋田県内に3件あり。